

外来化学療法室

1. スタッフ構成(2025 年 3 月時点)

- 吉山 広嗣(消化器外科部長、がん治療センター副センター長、外来化学療法室長)
- 佐竹 洋一郎(総合診療科部長)
- 看護師:16 名
- 看護補助者:2 名
- 受付事務:1～2 名

2. 認定資格取得(2025 年 3 月時点)

資格名	資格取得者
日本看護協会がん化学療法看護認定看護師	山下広恵

3. 運営方針

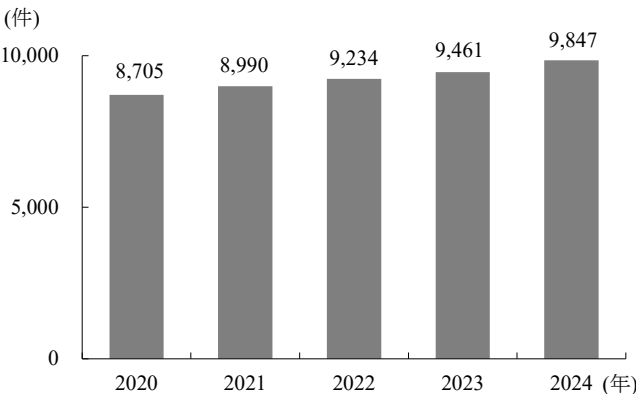
- 質の高いチーム医療のもとに、安全で安心な治療を快適に受けていただけるよう努めます。
- 治療ごとに問題点のスクリーニングを行い、主治医と情報を共有することで、より良い治療や支援、適切な生活支援ができるよう努めます。
- 有害事象への的確かつ迅速な対応で、安全性の高い化学療法を行います。
- 最新情報と専門知識を日々習得し、それに基づいた安全な投与管理を行います。

4. 実績

外来化学療法室は 2005 年 1 月に開設し、2025 年 21 年目を迎えました。開設当初は年間 1,713 件の実施でしたが、次第に増加を認め、2024 年は 9,847 件(年間 386 件増)実施、患者数 1,152 人(63 人増)でした。

疾患別患者数で最も多かったのは大腸癌 246 人、次に肺癌 153 人、乳癌 135 人、膵臓癌 114 人、悪性リンパ腫 77 人、胃癌 64 人、肝臓癌 56 人、クローン病 39 人、腎細胞癌 37 人、頭頸部癌 32 人、膀胱癌 31 人の順でした。

■ 外来化学療法実施件数



■ 疾患別患者数

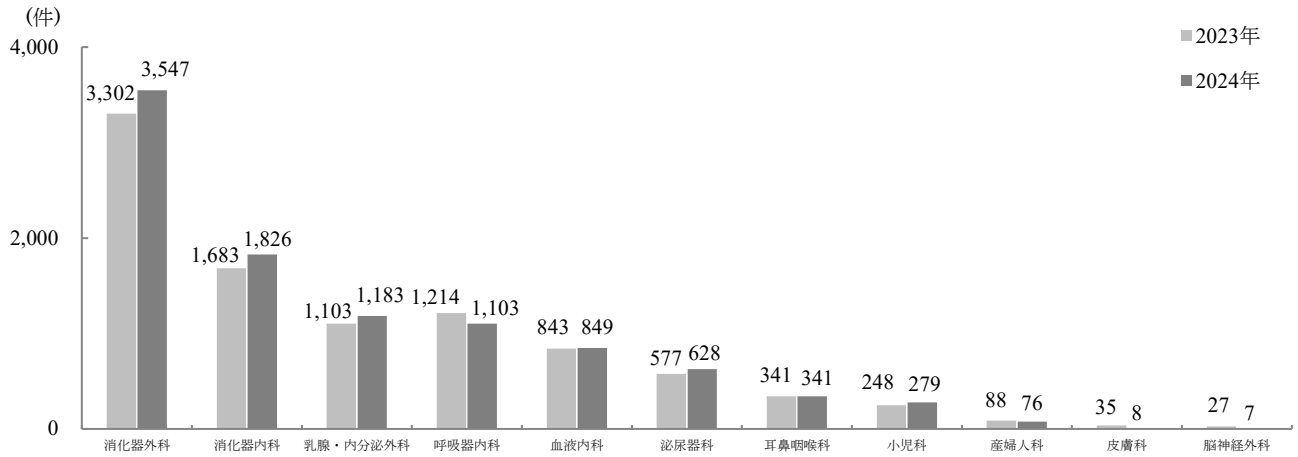
疾患名	2020	2021	2022	2023	2024
肺癌	144	149	154	150	153
胃癌	67	62	57	65	64
大腸癌	215	196	200	218	246
乳癌	136	121	121	113	135
肝臓癌	13	35	39	34	56
膵臓癌	78	98	107	114	114
胆道癌	20	25	27	37	23
食道癌	10	15	12	15	23
悪性リンパ腫	106	94	88	87	77
多発性骨髄腫	43	25	25	21	16
白血病	11	10	2	0	2
骨髄異形性症候群	1	1	1	0	0
卵巣・子宮・腹膜癌	21	18	13	10	11
前立腺癌	15	11	17	16	25
腎細胞癌	22	26	29	32	37
尿路上皮癌	6	6	6	7	10
膀胱癌	18	19	26	36	31
頭頸部癌	19	27	26	28	32
脳腫瘍	7	10	8	4	2
潰瘍性大腸炎	9	10	12	14	12
クローン病	29	37	41	41	39
若年性突発性関節炎	5	8	10	14	13
関節リウマチ	5	2	1	0	0
その他	22	24	28	33	31
合計	1,022	1,029	1,050	1,089	1,152

※1)2019 年 免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大、小児科導入等により、多様な疾患の治療が増加

※2)その他の疾患は、キャスルマン病、小腸癌、血管肉腫、悪性黒色腫、胸腺癌、間質性肺炎、ベーチェット病、全身性エリテマトーデス、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血等

実施件数の多かった診療科は消化器外科 3,547 件、消化器内科 1,826 件で、消化器外科・内科で 54.6%の実施となっています。続いて乳腺・内分泌外科 1,183 件、呼吸器内科 1,103 件でした。特に増加していたのは消化器外科で 245 件増、消化器内科、乳腺・内分泌外科も増加していました。

■ 診療科別実施件数



■ 診療科別主な実施レジメン(2024 年)

レジメン名
血液内科
Rituximab、R-CHOP、Pola-R-CHP、R-ベンダムスチン、A-AVD 療法、A+CHP、(R-)GDP、サークリサ、治験
呼吸器内科
ベムプロリズマブ、デュルバルマブ、ニボルマブ、アテゾリズマブ、IPI-NIVO、CDDP+VNR(short hydration) CBDCA+(PEM+Pembrolizumab or nab-PTX+Pembrolizumab)、CBDCA+(ETP or ETP-Atezolizumab or nab-PTX or PEM)、DTX、 RAM+DTX 併用療法、IVCYC(IP)、治験
消化器内科・外科
GEM+シスプラチン、SOX+(ニボルマブ or トラスツズマブ or ベムプロリズマブ)、ペバシズマブ+mFOLFOX6、エンハーツ、RAM+PTX 併用、 GEM+nab-PTX、mFOLFIRINOX、RAM+FOLFIRI、オニパイト+5FU/LV、アテゾリズマブ/ペバシズマブ、デュルバルマブ+GC、 トレメリムマブ+デュルバルマブ、インフリキシマブ、治験
産婦人科
M-TC、ドキシル、ベムプロリズマブ
乳腺・内分泌外科
CBDCA+PTX+Pembrolizumab、CE、dd-CE、dd-PTX、DTX、TC、トラスツズマブ、トラスツズマブ-パージェタ-DTX、トラスツズマブ+PTX、 ペバシズマブ+パクリタキセル、ハラヴェン、カドサイラ、エンハーツ
泌尿器科
GC 療法、GCa 療法、DTX、カバジタキセル、アキシチニブ+(ベムプロリズマブ or アベルマブ)、ベムプロリズマブニボルマブ、 エンホルツマブ ベドチン
耳鼻咽喉科
頭頸部癌 Cmax+パクリタキセル、トラスツズマブ+DTX、ベムプロリズマブ、ニボルマブ
皮膚科
ニボルマブ、パクリタキセル
脳神経外科
ペバシズマブ+TMZ
小児科
レミケード、アクテムラ、ベンリスタ

診療科別の主な実施レジメンでは、複数の診療科において複合免疫療法レジメンの使用が増加しています。患者年齢分布では 60 歳以上の患者が 75.8%を占め、特に 70 歳以上の患者が増加しており、さらなる高齢化となってきました。

■ 年齢別患者数

年齢(歳)	2022	2023	2024
0～ 9	5	4	6
10～19	21	30	33
20～29	19	14	15
30～39	23	23	26

40～49	59	58	61
50～59	124	120	138
60～69	251	261	275
70～79	405	421	469
80～89	142	150	125
90～	1	8	4
合計	1,050	1,089	1,152

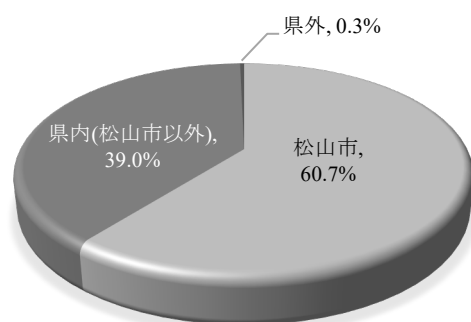
平均年齢	66.1	66.4	65.7
------	------	------	------

患者居住地域では広範囲な地域からの通院が多く、医療・看護・介護について、治療期からの地域との連携を視野に入れた病診連携が今後も重要であると考えます。

■ 居住地別患者数

地域	患者数	地域	患者数
松山市	699	内子町	32
松前町	81	大洲市	39
砥部町	23	八幡浜市	30
伊予市	88	伊方町	15
四国中央市	11	西予市	16
新居浜市	11	宇和島市	9
西条市	22	愛南町	8
今治市	38	鬼北町	1
久万高原町	12	高知県	3
東温市	13	香川県	1
合計		1,152	

■ 居住地別患者数割合



■ 外来化学療法室の運営状況

項目	2020	2021	2022	2023	2024
年間 実施件数	8,705 件	8,990 件	9,234 件	9,461 件	9,847 件
月別 実施件数	606～836 件	689～827 件	693～826 件	722～917 件	771～875 件
日別 件数中央値 (最小～最大)	35.0 件 (10～73)	34.9 件 (13～65)	36.5 件 (20～67)	37.3 件 (15～64)	39.7 件 (22～71)
年間利用患者数	1,022 人	1,029 人	1,050 人	1,089 人	1,152 人
患者平均年齢 (最小～最大)	65.5 歳 (4～97)	64.8 歳 (5～98)	66.1 歳 (6～99)	66.4 歳 (7～100)	65.7 歳 (6～101)
年間新規患者数	472 人	453 人	465 人	494 人	515 人
アレルギー/ 輸注反応出現数	16 件(Grade1-2)	16 件(Grade1-2)	25 件(Grade1-2) 9 月～6 件(Grade1-2)	67 件(Grade1-2) 2 件(Grade1)	64 件(Grade1-3) 10 件(Grade1-2)
スタッフ体制	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:11.8 人 (専任看護師:5 人) 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:4 人) 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:6 人) 病棟アシスタント:1 人 10 月～看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:12.1 人 (専任看護師:5 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:13.4 人 (専任看護師:7 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人

< 化学療法室運用の変遷 >

- ・ 2005年1月:開設 8床
- ・ 2013年5月:新病院 病床20床+処置室兼用診察室 2床
- ・ 2013年7月:ホルモン薬皮下・筋肉注射導入
- ・ 2014年6月:診療報酬改定に伴い診療科に戻る
- ・ 2016年2月:免疫チェックポイント阻害薬開始、複数診療科で使用増加
- ・ 2019年10月:小児自己免疫疾患などの治療導入
- ・ 2019年11月:病床20から22床に増床
- ・ 2020年2月:抗がん薬皮下注射およびホルモン薬筋肉注射は診療科または中央処置室での実施に変更

外来化学療法室は 8 床で開設後、件数増加に対応するため、2013 年 5 月新病院から 20 床、2019 年 11 月には 22 床に増床しました。現在、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬、治験など新薬が増加するとともに、多剤併用の長時間レジメン等が増加しています。また、薬剤師が患者面談を行い、有害事象評価と院外薬局との連携を行うなど、院内外が多職種でよりよい治療となるように患者さん、ご家族に関わっています。

スタッフは医師 2 人、看護師は随時増減がありますが、現在 16 人(専任 7 人、うちがん化学療法看護認定看護師 1 人・部分休業・育児短時間勤務・会計年度任用職員等)、受付事務 1～2 人、2017 年 9 月からは看護補助者が配属となり、協働しています。

がん化学療法は、質の向上のため常に新しい取り組みが必要とされます。薬剤師の行う患者指導は入院から外来へ継続し、管理栄養士による栄養指導は通院治療中にも受けられる体制作りを行っています。看護師は患者さん、ご家族の思いを聴き、多職種との関わりが持てるように調整しています。常に患者さんの安全を考えた環境を提供し、個々の状態や継続看護を視野に入れた有害事象対策、生活状況を踏まえたセルフケア支援などについてカンファレンスを行い実践しています。また、薬物アレルギー・輸注反応対策のシミュレーション研修を行うなど、緊急時対応方法の検討を継続しています。新しい情報は実践に活かせるように化学療法マニュアルを改訂し、化学療法チーム院内ホームページに掲載して医療者がいつでも閲覧できるようにしています。

5. 2025 年度目標

患者さん、ご家族にとって、より安全で安心して治療を継続できるような環境を作り、住み慣れた場所で過ごす患者さんの治療と療養生活を支援できるように、多職種で連携して取り組んでいきます。